

モニタリングレポート(令和6年度)						
施設名		鈴鹿市第2療育センター				
施設所在地		鈴鹿市岡田701番地				
指定管理者名		社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会				
評価担当課		障がい福祉課		問合せ先	059-382-7626	
施設の運営状況		(確認方法)月次報告, 事業報告書				
児童発達支援事業延べ利用者数	2,626名	放課後等デイサービス延べ利用者数	268名	保育所等訪問事業	23件	
事業収支		(確認方法)事業報告書				
項目		計画値(単位:円)		実績値(単位:円)		計画比(単位:円)
指定管理料		30,893,000		30,893,000		0
障害福祉サービス等事業収入		37,399,000		37,627,672		228,672
その他		101,000		116,146		15,146
事業活動収入計		68,393,000		68,636,818		243,818
人件費(給与・法定福利費等		54,253,000		54,388,025		135,025
事業費		629,000		568,314		▲ 60,686
諸謝金		166,000		162,723		▲ 3,277
保健衛生費		12,000		4,167		▲ 7,833
保育材料費		129,000		102,128		▲ 26,872
消耗器具備品費		268,000		251,617		▲ 16,383
教育指導費		24,000		22,917		▲ 1,083
車両費		30,000		24,762		▲ 5,238
教養娯楽費		0		0		0
事務費		6,190,000		6,185,103		▲ 4,897
福利厚生費・旅費・研修費		194,000		189,617		▲ 4,383
事務消耗品費・印刷製本費		187,000		168,010		▲ 18,990
水道光熱費		778,000		765,041		▲ 12,959
修繕費		73,000		72,100		▲ 900
通信運搬費		319,000		307,686		▲ 11,314
会議費・広報費		1,000		807		▲ 193
業務委託費		1,371,000		1,357,521		▲ 13,479
手数料		1,585,000		1,582,480		▲ 2,520
保険料		239,000		237,375		▲ 1,625
賃借料・租税公課		892,000		889,437		▲ 2,563
保守料・渉外費		551,000		615,029		64,029
負担金		0		0		0
事業活動支出計		61,072,000		61,141,442		69,442
事業活動収支		7,321,000		7,495,376		174,376
施設整備等による収支		0		0		0
その他の活動による収支		▲ 1,062,000		▲ 1,583,103		▲ 521,103
当期資金収支		6,259,000		5,912,273		▲ 346,727

評価項目	確認方法	評価	所見
業務の履行確認 (計画書や仕様書の内容を満たしているかを○×で評価)	月次報告書	○	適切に履行されている
	現地調査	○	適切に履行されている
	定例報告会	○	適切に履行されている
サービスの質 (「優良・良・普通・要改善」の4段階で評価)	アンケート	優良	要望はあるが、利用者は満足している
	現地調査	優良	利用者への支援内容は適切である
業務遂行能力 (各種財務指標等を参考に同業他社との比較も含めて○×で評価)	貸借対照表 (拠点区分)	○	純資産がプラスである。
	年度事業報告書	○	当期資金収支差額合計、当期末支払資金残高ともにプラスである。
	年度事業報告書	○	資産が負債を上回っている。(差引純資産がプラス)
年度業務報告書の内容評価			(適)・不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力いずれの点においても適切に実施されている。			
定例報告会の頻度と内容の評価			(適)・不適
月1回の定例報告を受けている。 課題等については、随時協議を行っている。			
緊急時の対応評価			(適)・不適
緊急的な報告を要する案件はなかった。 法人内部での報告体制はできており、必要事項は市にも報告される。 また、基本的な衛生対策も適切に実施している。			
指定管理者の総括評価			(適)・不適
業務の履行やサービスの質、業務遂行能力では問題はなく、また、児童発達支援センターとして、圏域における中核施設としての姿勢も良好である。			
施設の課題と対策			
旧牧田幼稚園を改修し開設した施設のため、利用にあたり注意が必要な環境(廊下が屋外に面しており、すぐに屋外に飛び出すことができる環境等)ではあるが、運営上の配慮を行い円滑な運営を行っている。 今後も環境面に対応した配慮を行い、利用者が安心して利用できる運営を行っていく必要がある。			
施設の方向性			
鈴鹿市第1療育センターとともに、「児童発達支援センター」として、本市の児童発達支援における中心的な役割を担っており、今後は障害者総合相談支援センターあいとも連携と取りながら、引き続き継続した運営を行っていく。			